

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名					
きゅう基礎実技					
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名	実務経験	
鍼灸学科・昼間部	1年	通年	中村 幹佑	○	
分野区分	教育課程		講義形式	単位	コマ数
専門分野	実習		実技	2	40
科目概要					

安全かつ正確な施灸を行う為に、適切な艾柱の大きさと形の作成や、艾柱の捻り方、点火の方法、手際の良い作成方法を身につける。また、実技室の使用法や火の取り扱いについて学ぶ。

透熱灸、知熱灸、七分灸、糸状灸、焦灼灸、台座灸(円筒灸)、隔物灸、灸頭鍼など様々な灸を実践する。

目標	
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	鍼灸師として安全で正確な施灸が出来るようになるために、灸の基礎的知識を習得するとともに、必要となる臨床的技能と態度を身につける。
到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・艾の種類を鑑別し使い分ける事ができる。 ・半米粒大の艾柱を作成する事ができる。 ・教員と同程度の温度の艾柱を作成できる。 ・紙上に施灸を100壮行い、穴開き・焦げを6壮以下にする。 ・ペアの失眠穴に半米粒大の透熱灸を2点交互施灸法で10壮行う。(3分以内)

履修に必要な予備知識や技能

教科書・参考書

教科書: はりきゅう実技(基礎編)

受講上の注意

実技室内の衛生環境維持の為、清潔な身嗜みで参加する事。
 艾を捻る上で指先は重要な為、爪の手入れを入念に行い参加する事。
 担当教員の許可なく火気を使用しない事。

成績評価方法

評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)				100%			100%
	実技試験実施要項: 前期 https://drive.google.com/file/d/1g_l5pzmbgYQ939mQoBtHMbaITJFf " : 後期 https://drive.google.com/file/d/1W9lne8o_BehhAxXD7s3Tr1DU7RdQmiwo						
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	艾の基礎知識と授業の全体像			はりきゅう実技 <基礎編>	筆記用具		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

第2回	艾炷作成方法:半米粒大		なし
第3回	線香を持って半米粒大の作成		なし
第4回	竹の上で点火		手ぬぐい (以下通年使用)
第5回	竹の上で点火		
第6回	紙上施灸		
第7回	紙上施灸		
第8回	紙上施灸と灸温度計		
第9回	自身への施灸(緩和法・紫雲膏・灸点紙)前脛骨筋に		
第10回	自身への施灸(緩和法・紫雲膏・灸点紙)前脛骨筋に		
第11回	自身への施灸(緩和法・紫雲膏・灸点紙)足三里		
第12回	紙上施灸とモクサス(手際と温度)		
第13回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 手の太陰肺経の取穴と施灸		
第14回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 手の太陰肺経の取穴と施灸		
第15回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 手の太陰肺経孔最穴に施灸(募穴診)		
第16回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 手の陽明大腸経の取穴と施灸		
第17回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 手の陽明大腸経の取穴と施灸		
第18回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 足の陽明胃経の取穴と施灸		
第19回	紙上施灸評価期間とモクサス(手際と温度) 足の陽明胃経の取穴と施灸		
第20回	前期のフィードバック		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

第21回	相手の失眠穴への2点交互施灸		
第22回	足の太陰脾経の取穴と施灸		
第23回	相手の失眠穴への2点交互施灸		
第24回	足の太陰脾経の取穴と施灸		
第25回	相手の失眠穴への2点交互施灸		
第26回	隔物灸(ショウガ灸)		
第27回	相手の失眠穴への2点交互施灸		
第28回	膀胱経 切経 7壮		
第29回	相手の失眠穴への2点交互施灸:後期評価期間		
第30回	胃の六つ灸		
第31回	相手の失眠穴への2点交互施灸:後期評価期間		
第32回	棒灸・せんねん灸		
第33回	相手の失眠穴への2点交互施灸:後期評価期間		
第34回	百会・裏内庭、その他特効穴		
第35回	相手の失眠穴への2点交互施灸:後期評価期間		
第36回	皮膚疾患への施灸(長野式蕁麻疹処置)		
第37回	相手の失眠穴への2点交互施灸:後期評価期間		
第38回	灸頭鍼		
第39回	相手の失眠穴への2点交互施灸:後期評価期間		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

第40回	灸頭鍼 電子温灸器 年間フィードバック		
実務経験と本講義との関連について			
<p>大森北整骨院、横浜医療専門学校附属鍼灸院、敬心鍼灸院などで0年以上臨床に関わってきました。その際、積極的に施灸を取り入れた治療を行ってきた経験を活かし、安全で効果的な施灸技術をお伝えします。</p>			
メールアドレス			
nakamura@nihonisen.ac.jp			